

---

2017年度第2回

郵博 特別切手コレクション展

# 沖縄本土復帰 45 年記念展

展示作品解説パンフレット



主催

郵政博物館、特定非営利活動法人郵趣振興協会

展示団体

琉球切手研究会

後援：無料世界切手カタログ・スタンペディア株式会社

開催日時

2017年5月13日（土）12:00-17:30

2017年5月14日（日）10:00-17:30

会場：郵政博物館

---

## 展示作品一覧

カッコ内の数字は展示フレーム数です

沖縄本土復帰への道程 (1)	木戸 裕介
琉球初期 1945-50 (3)	上田 勝久
私の好きな琉球郵便 (6)	秋吉 誠二郎
ハト航空の使用例 (1)	木戸 裕介
ドル表示数字切手 (2)	柿原 康人
琉球年賀 1955-72 (2)	三木 伸一
沖縄の外信船便 1947-72 (1)	大井 道夫
沖縄の本土あて航空便 1949-58 (1)	大井 道夫
琉球の現金書留 (1)	大井 道夫
八重山諸島の郵便局 (1)	大井 道夫
琉球記念切手 1951-63 (1 0)	木戸 裕介
琉球の記念切手 1964-72 (7)	大井 道夫
波之上宮葉書 1953-58 (2)	木戸 裕介
琉球・舞踊シリーズ／ローマ字入 (1)	大井 道夫

### 沖縄本土復帰への道程 (1)

木戸 裕介

1945年から1972年まで、沖縄(琉球)が歩んできた歴史を郵趣マテリアルを用いて1フレームで紹介いたします。一足早く本土に復帰したトカラ列島(1952.2.10)、奄美群島(1953.12.25)にまつわる希少なマテリアルも展示いたします。

## 琉球初期 1945-50 (3)

上田 勝久

1945年6月、沖縄戦が終結し南西諸島（旧沖縄県と鹿児島県の一部）は米軍の占領下に入り沖縄、宮古、八重山、奄美の4つに分割統治されました。郵便業務もそれぞれ独自に行われ、資材の調達、集配達、要員もままならない状況から立ち上がってきました。

郵便業務は1950年に琉球郵政庁に統一、行政的には1952年に琉球政府が樹立、占領17年後になって初めて分断された沖縄の統一がなされました。さらに20年の時を経て念願の本土復帰を果たしました。

この展示では、第1部 各民政府の暫定切手類、第2部 1948年の統一発行切手類にわけ、4地区の郵便の状況をカバー（使用例）、切手類を通じてその歩みを示しました。展示の理解を図るため下に各地区の切手類の発行状況を図示しました。



30銭書状からのカット  
平田印10銭、20銭貼

本部局 47年11月27日  
小型丸二型印

平田印発行と同時に調整された。上欄に”沖縄民政府”、中欄に年月日、下欄に局名が入っている。上部欄の文字は直線のものと同円周形のものがあり、局により異なる。本部局は直線のもの。

(鑑定書裏面)

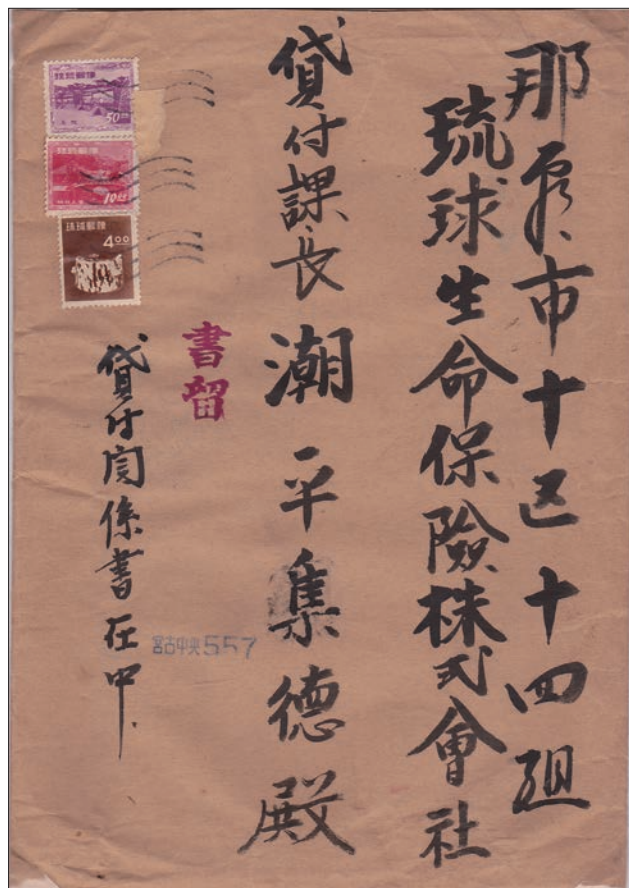
私の好きな琉球郵便（6）

秋吉 誠二郎

本作品は、琉球切手についての大河コレクションです。戦後すぐのスタンプレス時代から復帰時のカバーまで、お気に入りの厳選して展示いたします。

スタンプレスカバーの時代、昭和切手加刷の暫定切手、琉球郵政発行の切手など、多種多様なマテリアルが楽しめるのも琉球切手収集の魅力の一つです。第一リーフではお気に入りのマテリアルを展示しています。

1967年の年賀状ですが、郵政庁郵券課の差し出しです。ドル時代に入り9年目ですが、B円切手が画像にあるのも興味深いです。第二リーフ以降は原則時代順に貴重なマテリアルを展示しています。



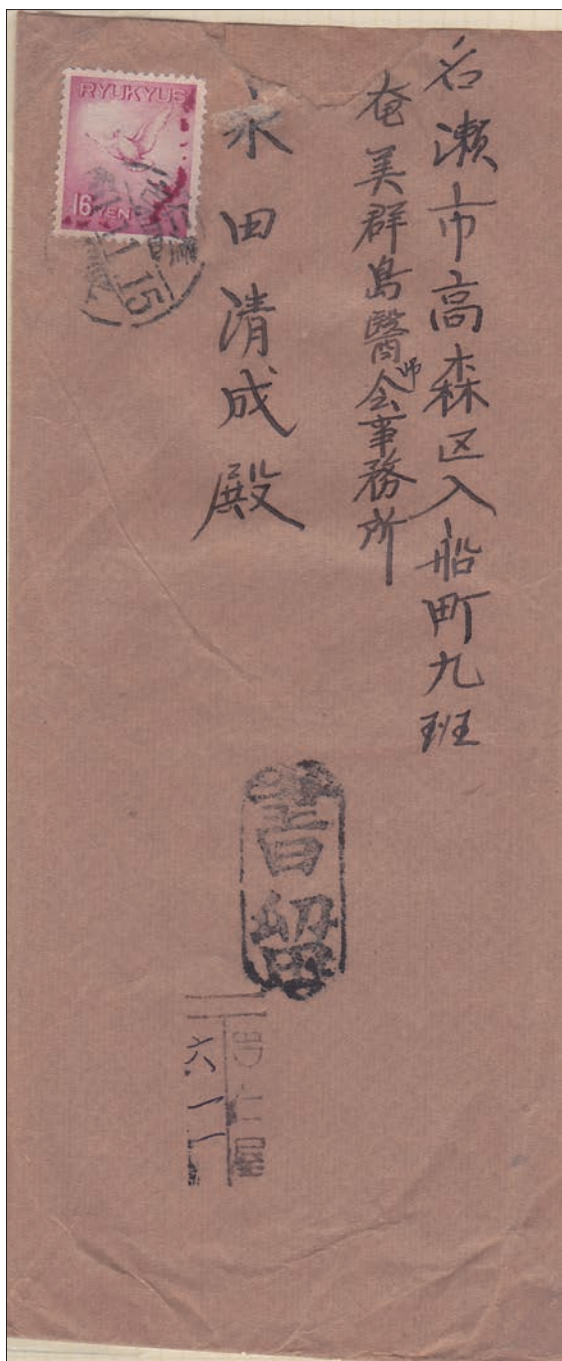
## ハト航空の使用例（1）

木戸 裕介

琉球で最初に発行されたハト航空切手は、当時の外国宛航空郵便料金 3 種類に合わせて発行された。

当時ではかなりの高額切手であり、航空便を問わず内国便としても大いに使用されたが、当時のエンタエア自体が希少なこともあり、収集が困難な切手である。

本展示では、ハト航空の多様な使用例を 1 フレームにてまとめた作品である。





## ドル表示数字切手（2）

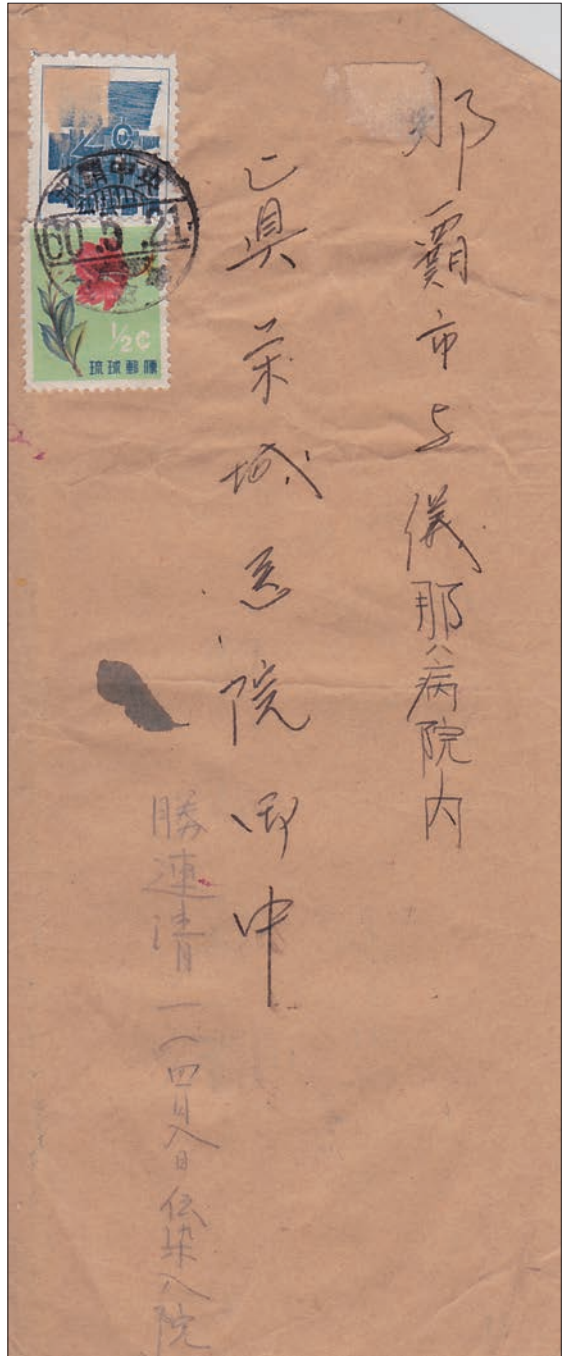
柿原 康人

1945 年米軍占領以来琉球で通用していた B 円軍票は、1958 年 8 月 23 日突如米ドルに切り換えると発表された。この通貨変更に対応する方策として、金戒展示するドル表示数字切手が誕生した。

切換日は 9 月 16 日と決定。切換まで 24 日、これまでの切手は全て日本の印刷局で調製してきたが、今回は時間的な余裕がなく島内での製作に踏み切らざるを得なかった。

当初は加刷切手での対応も考えたが、台切手が不足していたため、正刷切手を印刷することとなった。

旭堂印刷にて印刷を行ったが、品質管理もよくなく、目打ズレ、漏れ、抜けのよくないものも含めて納品された。これに紙質、色調を絡めると複雑怪奇な切手となっており、今回の展示にあたって小生なりに分類整理してみました。

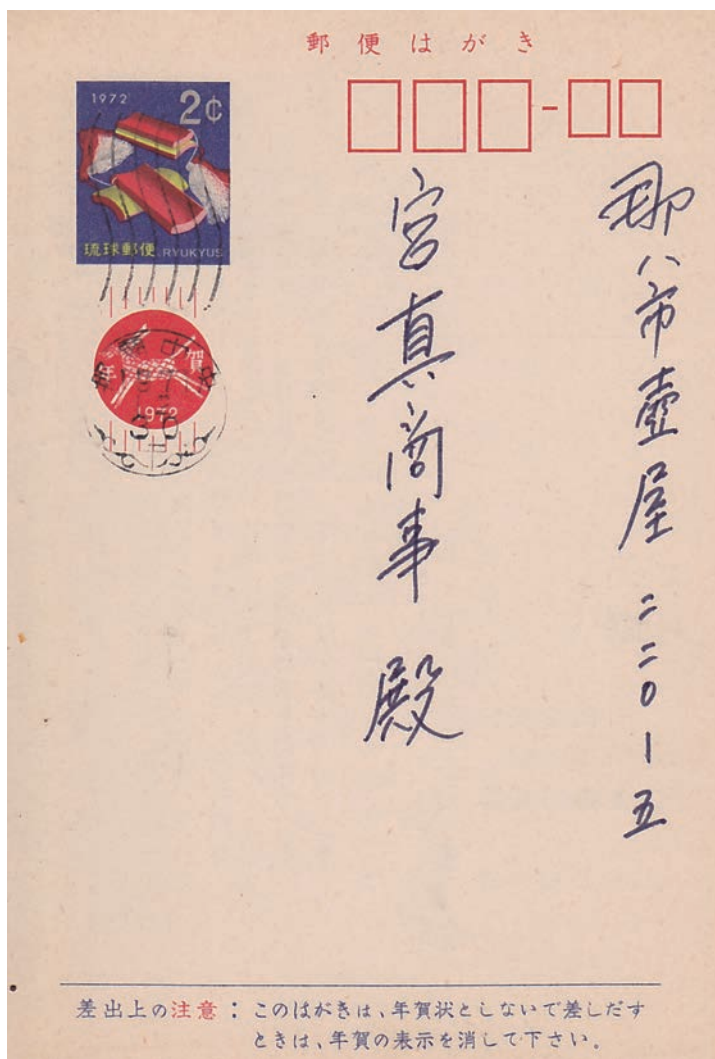


## 琉球年賀 1955-72 (2)

三木 伸一

琉球で発行された年賀はがきは、1956 年用が 1955 年に、年賀切手は 1957 年用が 1956 年に初めて発行されました。これらの切手、葉書は復帰を迎える 1972 年まで継続して発行されます。

これらの製造面、使用面を見つつ、琉球における年賀郵便の全貌を切り出したいと思います。複数のバラエティ、希少な局別使用例など、琉球ならではの特徴について注目してご覧いただければと思います。



## 沖縄の外国船便 (1) 1947-72

大井 道夫

1947 年 5 月沖縄から外国あての国際郵便業務が再開された。本展示では 1947 年の国際郵便業務再開を皮切りに、主に全琉球統一料金制実施後の 1949-1972 までの ”米軍政下” に於いて、外国あてに差し出された船便郵便物を料金の変遷に沿って展開している。

## 沖縄の本土あて航空便 1949-58 (1)

大井 道夫

1949 年 8 月に沖縄 4 地区の郵便料金統一が実施された。本展示ではこの料金統一後、1958 年に通貨が米ドルに切り替わるまでのいわゆる ”B 円通貨時期” に、本土あてに差し出された航空便の書状を、郵便料金の変遷に則り、航空切手の発行時期と絡ませて展開したものである。

## 琉球の現金書留 (1)

大井 道夫

戦後沖縄に於ける現金書留の制度が導入されたのは、1953 年 12 月 2 日である。同日、琉球政府最初の現金書留の専用封筒が発行された。

本展示では、本土復帰までの現金書留の使用例を、現金書留封筒の移り変わりや郵便料金の変遷の局面から展開したものである。

## 八重山諸島の郵便局 (1)

大井 道夫

八重山諸島は南西諸島の最西部に位置し、石垣島をメインとした島嶼群である。琉球郵政時期、八重山諸島の郵便局は、13 局 1 分室が開局していた。

本展示では、八重山諸島での使用例を局別に紹介する。離島の小局が面白いところです。



## 琉球記念切手 1951-63 (10)

木戸 裕介

本作品は、琉球において 1951 年から 63 年までに発行された記念切手を整理したものである。琉球での初めての記念切手は、1951 年の琉球大学校開学記念を皮切りに、本土復帰を迎える 1972 年まで続くことになる。

初期の B 円時代からドル時代初期までは、発行枚数が極端に少ない。ゆえにカタログ価格も高く、使用例は一段と希少である。ドル後期になると発行枚数は増えるが、郵趣的、また投機的な人気もあり、未使用シートで持つことが一般的となったため使用例が一段と難しくなる。

本作品は使用例を追うこととし、一部のアーカイブ類やエラー、カタログ価格の高い切手のシートやバラエティなど特筆すべきものを除いて未使用を展示していない。それは、琉球切手の魅力の一つでもある群島、離島ごとの難易度の高い使用例収集を紹介するためでもある。

一般的には、最大人口を擁する沖縄島での使用例が最も多く、宮古、八重山の順に難しくなる。また、沖縄本島でも那覇よりは国頭などの小局を狙い、八重山中央よりは波照間など、より少ない局の使用例を追い求めるのもおもしろい。簡単に言うと、いかに那覇を外すか、である。

また、本作品中で注目して欲しいのは、沖縄より一足も二足も早く本土復帰を迎える奄美における使用例である。1953 年 12 月 25 日の復帰まで、奄美は琉球であった。第 3 回新聞週間までは奄美の使用例が存在し、存分に展示に取り入れている。また、当該の第 3 回新聞週間では、奄美本土復帰前日の使用例 (いわば、奄美で琉球切手が使えた最終日) を展示している。



## 琉球の記念切手 1964-72 (7)

大井 道夫

琉球の記念切手後半時期は、前半に比べ多数の記念切手が発行された時期である。

行事関係の切手は元より、シリーズ切手も多数発行され、その南国情緒溢れる図案から本土、外国からの人気も高かった。この時期、本土からの切手ブームが飛び火し、空前の琉球切手ブームを起こすことになった。

一方、郵便史的にみると、記念切手の額面である内国および本土あて書状料金 3 セント時期は、1958 年の B 円→ドルへの通貨変更以来 1971 年まで 14 年間の長きに続いた。

復帰前の 1971 年 9 月にようやく 4 セントに値上げし、間を置かずして 5 ヶ月後の 1972 年 2 月には 5 セントに値上げ、そして 3 ヶ月後の同 5 月に本土復帰を迎え、日本郵政に移管した。

沖縄切手投機の加熱もあり 1970 年以降は、記念切手の使用率が下じたのか一般使用例のマテリアルが少なく、難しい収集域となっている。

これに復帰直前の相次ぐ料金値上げも重なり、適正料金での使用期間が 2 日間と超短期間のものも存在し、記念切手の使用面収集では最難関時期といえる。

本展示では、琉球郵政時期後半の 1964 年 -1972 年に発行された記念切手 104 種類（年賀切手を除く）のエンタィヤを発行順に 1 種 1 リーフを基本に展開した。



## 波之上宮葉書 1953-58 (2)

木戸 裕介

本作品は、琉球において 1953.12.2 の郵便料金改訂に合わせて発行された内国用葉書のステーションナリー作品である。

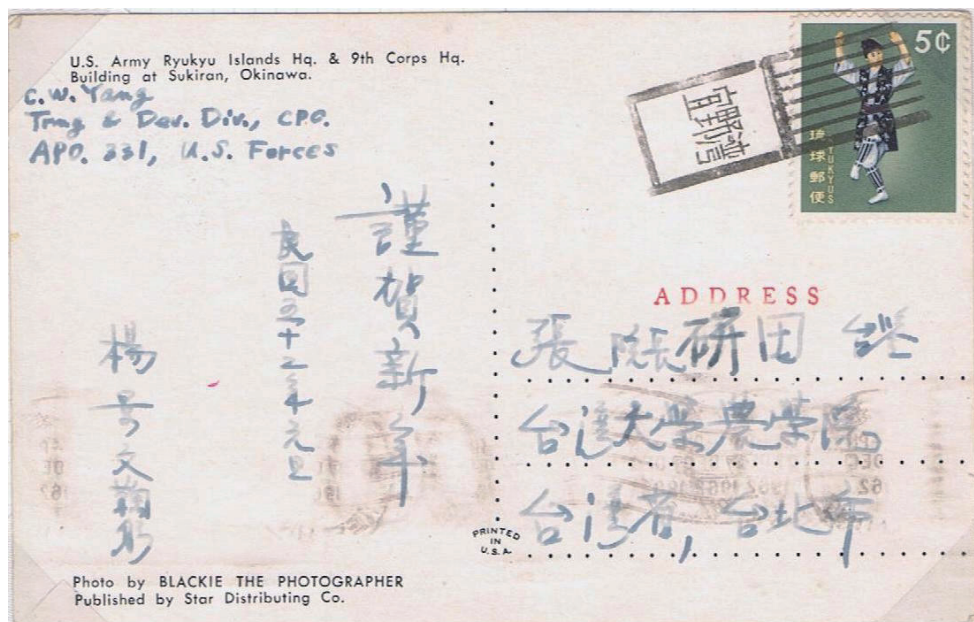
図案には戦前の沖縄県下唯一の官幣社である波之上宮が採用された。B 円通貨時期を通して印刷され、ドルに通貨切替となった後も、改訂加刷が施され暫定的に使用された。

当初は沖縄タイムス製版で向春印刷所印刷の大型波之上葉書が使用され、のちに大蔵省製版による小型波之上葉書が印刷された。本作品は JAPEX2014 にて大銀賞を受賞した作品をそのまま展示するものである。

## 琉球・舞踊シリーズ／ローマ字入 (1)

大井 道夫

沖縄各地に伝わる民族舞踊を描いた普通切手のシリーズです。1961-72 年に本土復帰するまでの長期間にわたり使用された。本展示では、消印バラエティーと使用例を中心に 1 種類 1 リーフ基本に展開している。



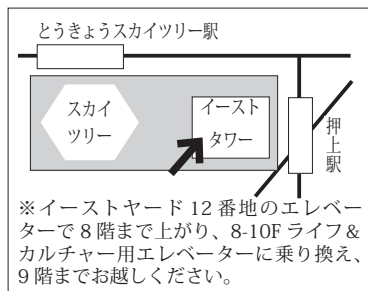
# 郵博 特別切手コレクション展

1902年(明治35年)に開館した「郵便博物館」に  
その起源を遡る「郵政博物館」で開催される特別展です

## 2017年度に開催予定の特別切手コレクション展一覧

開催期間	特別展名
4/21-23	郵便制度史展 2017 ポスタル・ヒストリーのメイン・ストリームを織りなすコレクションの数々
5/13-14	沖縄本土復帰 45 年記念展 戦後 1972 年まで沖縄で独自に発行された「沖縄切手」コレクションが大集結
6/3-4	昭和切手発行 80 周年記念展 「昭和」の最高峰コレクションが揃い踏み
10/7-8	日本の記念特殊切手コレクション展 記念特殊切手の製造・発行・使用面を研究するグループの結成 10 周年記念特別展示
11/11-12	「心をつないだ年賀郵便の歩み ― そして未来へ」展 送り手の真心と郵政マンの努力の結晶「年賀郵便」の歴史を紐解く
12/9-10	第 5 回ヨーロッパ切手展 ヨーロッパ切手の本格コレクションが勢揃い
2018 年 2/3-4	第 1 回いずみ切手研究会展 わが国郵趣グループのトップ・ランナーの実力がここに明かされる
2018 年 3/3-4	安藤源成コレクション展 フィラテリー 70 余年の軌跡と名品の数々を含む円熟コレクションを一堂に

特別切手コレクション展の開催時間は原則として午前 10 時～午後 5 時半ですが、初日だけ 12 時開始になる事が多いので、ホームページでご確認の上、お越しく下さい。



### 郵政博物館への行き方

所在地 東京スカイツリータウン・ソラマチ 9

階  
※イーストヤード 12 番地のエレベーターで 8 階まで上がり、8-10F ライフ & カルチャー用エレベーターに乗り換え、9 階までお越しく下さい。

最寄駅 押上駅(東京メトロ半蔵門線、都営浅草線、東武スカイツリーライン、京成押上線)、とうきょうス